

阿武教子 さん

Noriko Anno

世界選手権4連覇しながらも、アトランタ、シドニーオリンピックでは初戦敗退。昨年のアテネオリンピックで念願の金メダルを獲得した阿武教子さんが、3度のオリンピックを振り返ってくれた。

アテネオリンピックを終えて

オリンピックが終わって、いろんな表彰式やトークショーなどに出させていたで忙しかったですね。初戦敗退した2度のオリンピックとは全然ちがいます。負けたら呼びじゃないので（笑）。過去2回勝てなかったからこそ、28歳まで現役を続けることができたし、8年間かけて人間としての幅を広げることができたのだと思います。昨年のオリンピック決勝では久々に立ち技（袖釣り込み腰）での一本勝ち。今までの練習の成果を出し切った試合となりました。本当にいい内容で締めくくれたと思っています。あれがもし「注意」で試合が終了していたら、もう一度世界選手権を目指していたと思いますよ。理想は昔から「花咲いている時に去りたい」というのがありましたので、2004年の11月で第一線を退くことにしました。

勝って辞めようと思っていたシドニー

シドニーの時は24歳。3歳から柔道を始めていて、28歳まで続けるのは無理だと思っていたので、実はシドニーで勝って辞めようと思っていました。世界選手権2連覇して勢いもある時だし、年齢的にも体力的にも一番ピークだと思っていたので、賭ける思いは大きかったです。初戦敗退したときは、「もう一度頑張ろう」という気持ちにはなれず、自分を立

て直すので精一杯でした。すぐに次の目標に向かう気にはなれず、もちろん4年後のことなんて考えられませんでした。立ち直るには、ある程度時間が解決してくれたところもありました。自分と向き合って冷静に分析する時間を作ること。そして人との出会いです。

負けたとき、どん底にいる時にこそ傍にいてくれる人のありがたさを強く感じました。落ち込んでいる人の傍にいるのは大変な時間と体力を使うことだと思います。それでも私の性格を充分に理解し、その上で色々な角度からアドバイスをくれた人には本当に感謝しています。本当に信頼できる人が何人かいることによって、目標から逃げずに立ち向かうことができたと思います。

オリンピックに対するマスコミの注目度はすごいし、柔道は「勝って当たり前」みたいに言われるんですよ。だから今までのオリンピック前には、「絶対に勝たなくてはいけない」という焦りがありました。でもアテネの時には「あと何日あるから…」と思えたんです。そう思えたのは、シドニーからの4年間で少しずつプラス思考になっていけたからだと思います。気持ち次第で、結果も内容も全然違って来るんだとわかりました。

先生へのメッセージ

小学校高学年のときに、バレーボールの監督をしていた担任から「いいよな。お



前は個人競技で」と言われたことですごく傷ついたので今でも覚えています。その先生にとっては些細なことでも、私にとっては忘れられない一言でした。先生はたくさん的人数を相手にしているので、まとまってくれた方がよいのかもしれないのですが、色々な才能が子どもにはあると思うんです。

輪の中に入るのはあまり得意ではないけれど、特別な才能をもっている子もいます。それを潰さずにわかってもらえるだけでも、その子は救われます。自分と違う感覚の子どもも、一人の人として接して欲しいと思います。違う感覚の子どもからも教えられることも多いはずですから。お互いが成長できる関係でいられることがベストなのではないでしょうか。

阿武さんにとっての「オフ」は…

休みの日はだいたい家にいます。洗濯したり掃除したり。最近は韓国ドラマにはまっています。「美しき日々」のイ・ビョンホンさんのちょっとしたしぐさがかっこよくて…（笑）。アテネオリンピックの最中も観ていたんですよ。



柳川の川下りと「せいりむしー」が、阿武選手のリラックス法。世界選手権やオリンピックなどの大きな大会前の恒例行事になっていた。

阿武教子（あんのりこ） | プロフィール

山口県出身。柔道一家に生まれ、3歳から柔道始める。明治大学卒業後、警視庁へ。1993年、英国ハミルトンでの世界選手権で2位。1997年に世界選手権で初優勝し、その後4連覇。国内では全日本女子選抜体重別選手権12連覇。アテネオリンピックで悲願の金メダル獲得後、ナショナルチームを引退。好きな歌手はモンゴル800、好きな俳優はイ・ビョンホン。

人間だれでも挫折はある。
だから頑張り続けることが大切。
努力は人を裏切らない。